

# I . トピックス

## NYタイムズ「2025年に行くべき52か所」に 富山市

2025年1月7日、米国 The New York Times が  
「2025に行くべき52カ所」を発表。  
富山市 が選ばれました。

*Toyama, Japan**Enjoy cultural wonders and culinary delights while skipping the crowds**Cradled on one side by the Japanese Alps and on the other by the Sea of Japan, the city of Toyama serves as a gateway to the Noto Peninsula, which was devastated in 2024 by an earthquake and torrential rain and, although still recovering, is now courting tourists as part of its recovery efforts. The Glass Art Museum, which contains a public library and was designed by Kengo Kuma, is a towering cathedral of timber and light. In early September, the lantern-lit Owara Kaze no Bon festival fills the suburb of Yatsuo with dance. Many of Toyama's culinary delights are southeast of its historical castle and central park: Alpes offers French bistro bites; Hida unexpectedly — but deliciously — pairs natural wine with oden (one-pot dishes) and izakaya (Japanese pub) fare; Suzukeema serves seasonal Japanese curries. Sip coffee surrounded by model trains at Blue Train and end the day with a cocktail at Hanamizuki-no-heya, a family-run jazz bar.*

50周年

富山医科薬科大学 開学  
医学部 設置

1975年

20周年

3大学統合「新・富山大学」  
芸術文化学部 設置  
アドミッションセンター 設置

2005年

10周年

北陸新幹線(長野～金沢)開業

2015年

1周年

北陸新幹線(金沢～敦賀)延伸

2024年

富山大学では、国立総合大学にしかできない学部の垣根を超えた融合型教養教育と、幅広い専門性を学び深めていく学部教育だけではなく、今後の変化が激しい現代社会を生き抜いていくのに必要な“汎用的能力”の修得のため、次の3点に関する教育を全学で推進しています。

## ① データサイエンス教育の推進

社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力

## ② 英語教育の推進

グローバルな世界で通用するコミュニケーション能力

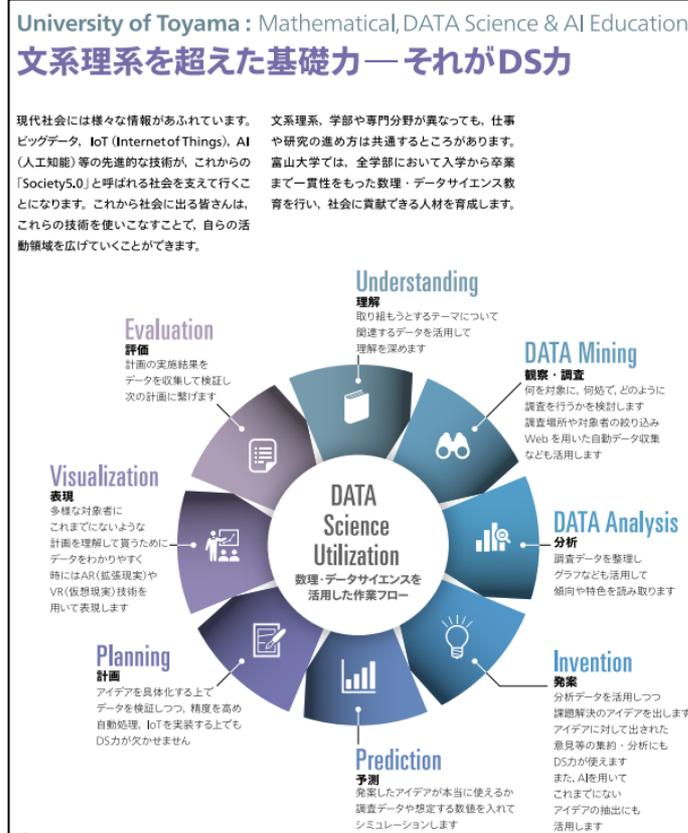
## ③ アクティブラーニングの推進

自ら考え、学び、課題解決に繋げる姿勢

「今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、**数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要**」（平成30年11月26日、中央教育審議会、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」より）

- 富山大学では、2020年度より入学する全学部学生に、数理・データサイエンスに関する基礎力を培うための、「富山大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を提供開始（データサイエンス教育を必修化）。
- 2021年8月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定。
- 2023年8月、先導的で独自の工夫・特色を有するとして「認定教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定。  
[全国で23大学のみ、北陸の国公立大で初]
- リテラシーレベルよりもさらに専門的な内容を含んだ、「認定教育プログラム（応用基礎レベル）」に、工学部は2022年、都市デザイン学部は2023年8月認定。

●令和6年には、大学改革支援・学位授与機構の大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に採択され、上級者養成を開始。



# 大学受験期をピークとしない英語教育で、 全学生の英語力向上に取り組む

## ● TOEIC-IPテストを1年次に2回実施

1年次の教養教育の必修科目の英語において、TOEIC-IPテストを組み合わせ（4月と12月）、e-learningを導入し英語の継続的な学びを確立。

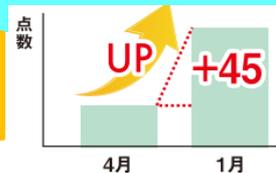
## ● 確実な英語力向上

英語の授業では、「習熟度別」クラスと「興味・関心別」クラスで学修。TOEIC-IPテストの受検者平均点は、令和4（2022）年度入学者で45点、令和5（2023）年度入学者で52点、令和6（2024）年度入学者で46点上昇。200点以上上昇した学生も有。

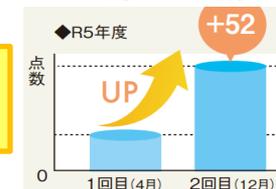
## ● 1年次春休みで「短期海外英語研修」

英語を「学ぶ」だけでなく、「使う」機会を設定。1年次修了後の2～3月（春季休暇中）に、60名を海外の提携大学へ派遣する研修プログラムを用意（2024年度は、ニュージーランド／マレーシア／台湾）。参加学生には、大学基金から1人あたり10万円を補助。

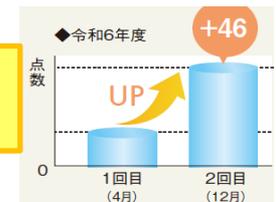
R4  
入学者



R5  
入学者



R6  
入学者



# 富山大学は「学生の主体的な学びを促す」ことを全学における“教育目標”として明記

## ●富山大学【理念と目標】

・目標 I 教育 ー高い使命感と創造力のある人材の育成ー

富山大学は、学生の個性を尊重しつつ人格を陶冶するとともに、倫理観を育み、広い知識と深い専門的学識を教授することにより、「使命感と創造力に富む人材を育成する総合大学」を目指す。

1. **学生の主体的な学びを促し**、多様な学修ニーズに応え、教育の質を保証するために、教育環境の充実と教育システムの改善を図り、教員の教授能力の不断の向上に努める。
2. 学士課程では、教養教育と専門教育を充実し、グローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成する。
3. 大学院課程では、体系的で高度な専門教育を充実し、現代の多様な課題に果敢に挑戦し解決できる人材を育成する。

一方通行的な講義形式の従前の教育とは異なり、学生が能動的に学修していくために「アクティブ・ラーニング」を取り入れた講義を、全学で推進。

グループワークやディスカッション、反転授業、PBL型授業等の手法も取り入れながら、学生が自ら考え課題をみつけ解決に導く能力修得を目指しています。

アクティブ・ラーニング導入率 **80**% (2024年度)

軽金属を究め、  
世界へ。

富山大学では高岡キャンパスに「軽金属材料共同研究棟」を2023年10月に新設。アルミニウムリサイクルの拠点、かつ、産学官金民が協働で取り組む資源循環型社会モデルの拠点。



2021年4月、熊本大学と富山大学は、**全国初の軽金属の総合的な研究教育拠点「先進軽金属材料国際研究機構(ILM)」**を設立。

熊本大が力を入れるマグネシウム、富山大が得意とするアルミニウムの研究に加え、両大学にチタン研究の新たな設備を導入。

軽くて丈夫な軽金属は、電気自動車(EV)や航空宇宙、橋、医療機器など幅広い分野で活用が進み、世界各国が研究開発を強化。



熊本大学  
Kumamoto University



富山大学  
UNIVERSITY OF TOYAMA





■富山資源循環社会モデル創成に向けた産学官民共創拠点HP



<https://kyoso.ctg.u-toyama.ac.jp/>

■「アルミ」「金属」「材料工学」に興味がある生徒は、  
都市デザイン学部  
材料デザイン工学科へ。



<https://www.sus-u-toyama.ac.jp/department/materials-design/>

アルミ資源を廃棄せず繰り返し利用する“資源循環社会”を産学官民で構築することが目標。CO<sub>2</sub>削減効果の大きい「アルミ産業」の資源循環モデル構築を推進することで、富山県の工業の持続的発展、我が国のアルミ産業の発展、地球規模での環境保護貢献を目指す。